



東京地下鐵道會社創立以來の幹部

右上 前社長 古市公威氏
 右下 前副社長 中川正左氏
 中央 社長 野村龍太郎氏
 左上 専務取締役 早川徳次氏
 左下 相談役 阪谷芳郎氏

Organizers and directors of The Tokyo Under-Ground Railway Co.

Right top corner.....Ex-President. Mr. Koi Furuichi.
 Right down corner...Ex-sub-oresident. Mr. Seisa Nakagawa.
 Center.....President. Mr. Ryutaro Nomura.
 Left top corner.....Director. Mr. Tokuji Hayakawa
 Left down corner.....Director. Mr. Yoshiro Sakatani.

野村社長の挨拶

昭和二年十二月二十九日東京地下鐵道開通式に野村博士の述べられしもの、尙ほ工事中の詳細寫眞等は、大正十五年七月號の工事叢報参照。(編輯係)

帝都の混亂せる交通状態を緩和し、市内の長距離輸送並に郊外と都心との交通を迅速にし、以て市民の便益を謀り、能率の増進に努むるは今日の急務にして、夫は高速地下鐵道の敷設に俟つの外なしと確く信ずる所であります。

當社夙に爰に見るあり、萬難を排して此の事業を計畫し大正六年七月十六日、其の第一期事業として品川新橋上野淺草間の地下鐵道敷設免許を出願し、大正八年十一月十七日を以て之が免許を得、大正九年十月十三日を以て會社の設立を見るに至りました。爾來沿線の詳細なる地質調査を行ひ、大體の設計豫算を調製し、又主任技師を歐米に派遣し、地下鐵道の視察研究を爲さしめ、第一に新橋上野間の工事に着手の見込を以て銳意其の準備を急ぎ居りましたが、偶々十二年の大震災災に遭遇しまして、計畫に一頓挫を來し一時中止の已むなきに至りましたことは誠に、遺憾に堪へざる所であります。其の後財界の状況に鑑み資金並に營業上の關係等を考慮しまして、當初の計畫を變更し最も交通の頻繁にして兩端に遊覽地を有する上野淺草間の工事に着手し、地下鐵道の模範を示すこと、致しまして其の工事を大倉土木株式會社に依託し、十四年九月を以て起工し、二ヶ年有餘を閲し本年十二月末を以て開通を見るに至りました。

抑々本事業の如きは我邦始めての試みにして、其の當否に關しては専門の技術者間に於てすら兎角の議論もありません程ですから、當社に於きましては特に獨國シーメンス、パウユニオンの技師長アール、プリスケ氏を技術顧問に聘し、鐵道省其の他の各専門家にも夫々技術上の囑託を爲し、其の設計に付きては慎重なる研究を遂げ、紐育柏林等の地下鐵道の設計に準據し、加ふるに我邦に於ける地震の影響を考慮し、鐵骨鐵筋併用コンクリート構造の函型式を採用することに致しました。而して工事を施行するに方しましては、道路の直下に設くるものでありますから、毫も交通に支障を來さざる様、先づ以て路面の假覆工を施さざるべからず、其の電車軌道の部分の如きは夜半電車運轉休止中の間合を見計ひ、僅に三四時間の外仕事を爲すことを得ず、又地下に於ては水道下水瓦斯管其の他埋設物の複雑せるものありて之が移轉又は防護を必要とし、本工事を施すに先立ち斯る豫備工事の爲に費す所の苦辛も亦容易のことでありませぬので、施行上に就きましては細心の注意を拂ひ虞遺漏なきを期しました。

幸に地質は良好にして地下湧水も亦甚しからず、工事順調に進捗し、多少區劃整理の遅延其の他の爲豫定の工程を誤りたるとは云へ、今日の成功を見るに至りましたことは誠に欣幸に堪へざる所でありまして、是れ偏へに社員一同並に工事請負者の奮勵努力に由るは勿論であります、亦監督官廳、關係官公署、會社並に沿線各位の甚大なる御同情と御援助に由ること、感謝措く能はざる所であります。